



## 世代を超えて故郷の情景を歌い継ぐ

2/27 市民で歌うふるさとの校歌

市内小中学校の校歌を歌い、歌詞に描かれた安曇野の情景を後世につなぐ「市民で歌うふるさとの校歌」（同実行委員会主催）が2月27日、堀金総合体育館サブアリーナで行われました。この日は市民など約430人が参加。市内の9コーラスグループが全17校の校歌を披露しました。来場した稲田明美さん（穂高柏原）は「それぞれの校歌の歌詞に織り込まれた想いや情景に触れて感動しました。出身校以外の校歌も聴くことができて良かったです」と話してくれました。



## こだわりの豆腐 品評会初入賞

3/1 県豆腐品評会入賞報告

市社会福祉協議会の障害者就労支援施設「すてっぷワークま・めぞん」が製造した絹ごし豆腐が、1月に開催された第19回県豆腐品評会の「絹ごし豆腐の部」で入賞し、県中小企業団体中央会会長賞を受賞しました。製造係の丸山昇さん（松本市）と販売員の上條允照さん（豊科）が3月1日、宮澤市長に受賞を報告しました。市内産大豆にこだわった豆腐で初出品での受賞に、丸山さんは「さらに上位を目指したい」と意気込みを話し、上條さんは、「おいしい」と声を掛けてくれる購入者に感謝し「受賞してとてもうれしいです」と話しました。

## 伝統のあめ市 街ににぎわい

2/7 穂高あめ市

各地で行われているあめ市の一つ、「穂高あめ市」（主催：穂高地区活性化総合プロジェクト・小岩原哲夫リーダー）が2月6日と7日の両日、穂高神社北神苑を主会場に開催されました。

期間中、地元の若者たちでつくる「健壮団」が神輿を担ぎ、商売繁盛などを願い、穂高地域の等々力町区、穂高町区の区内を練り歩きました。

また、7日には、福だるまの販売や各種イベントが行われたほか、市商工会穂高支部青年部による「振る舞い餅」や、同女性部の「あったか汁」も来場者に振る舞われ、会場は大勢の人でにぎわいました。

イベントのひとつ、問題を解きながら境内のチェックポイントを回る「穂高神社探検ウオークラリー」に参加した小林未来さん（穂高北小5年）は「問題を解くことで、自分が知らない穂高のことを学ぶことができて楽しかったです」と話しました。



## 音楽に乗せて 防火防災を呼び掛け

2/21 市消防団音楽喇叭隊コンサート

市消防団（寺畑佳司団長）による「吹奏楽と消防ラッパのコンサート」が2月21日、堀金総合体育館で開催されました。当日は市民など約400人が来場。同団音楽喇叭隊が、消防ラッパによる行動曲などを披露したほか、「日本昔ばなしセレクション」や「見上げてごらん夜の星を」など、子どもから大人まで楽しめる曲目も演奏され、会場から大きな拍手が送られていました。

また、鳥羽一郎の「兄弟船」の演奏では、兄弟の漁師に扮した消防団員が、ユーモアあふれる寸劇で、2月に各家庭に配付した市の「防災マップ」の活用などを来場者に呼び掛けていました。



## 熊井映画の魅力語る

2/6 熊井明子さん講演会・「千利休本覺坊遺文」上映会

映画監督で名誉市民の故熊井啓さんの作品「千利休本覺坊遺文」の上映会と、夫人でポプリ研究家の熊井明子さんの講演会が2月6日、豊科交流学习センター「きぼう」で行われました。この催しは、開館5周年を記念して同館が企画。当日は、市民など約200人が聴講しました。講演で熊井さんは「この作品が一番好き」と話し、ロマンティストという熊井監督の人柄にも触れ、監督の作品への思いも語ったほか、当時の製作秘話や作品の見どころを紹介してくれました。



## 明るい社会実現へ思いをつづる

2/1 社会を明るくする運動・県作文コンテスト

第65回「社会を明るくする運動」長野県作文コンテスト（同運動長野県推進委員会などが主催）で小学校の部・最優秀賞と優秀賞をそれぞれ受賞した堀内優羽さん（明北小6年）と石田サラさん（明南小6年）が2月1日、宮澤市長に受賞を報告しました。小学生で「いじめ」を体験し、それを乗り越えた母との会話を題材にした堀内さんは「母の強さや思いが伝わって良かった」と話しました。一昨年の県神城断層地震で死者が出なかったことに感動した石田さんは、地域のつながりの大切さを作文に記し「受賞してうれしい」と喜びを話してくれました。